

双葉町との出会いは
運命だと体が震えました

あさの まさみ
浅野 雅己

浅野燃糸株式会社 代表取締役社長

昭和35年(1960)、岐阜県安八町生まれ。
福島大学教育学部卒業、岐阜県で教員生活を4年過ごした後、
1987年に浅野燃糸入社。
1995年、35歳で代表取締役社長就任。

「福島の復興に力を貸してくれませんか」と繊維業界の企業が
集まる会で経産省からの声かけが、福島に工場進出を考え始めたきっかけ。
2019年7月、伊澤町長自らの案内で、初めて双葉町を訪れました。
津波と原発事故の被害を受け更地になった土地に立って感じたのは無限の可能性。
「この風景は何だ、ここから何かを起こさないと」と思いました。
「ずっと待ち続けているの？」傷んだ家に向かって、私はそう話しかけてしまい、
目頭が熱くなりました。あるじを失った家々がその帰りを待つかのようでした。
帰り道、双葉に工場を建てようとするで心に決めていました。
これは理屈じゃない。運命だと体が震えました。
私の会社も、さまざまな困難を多くの方に助けられて乗り越えてきました。
「いつかは社会に恩返しをしたい」という気持ち、学生時代の4年を過ごした
福島への思いがあります。伊澤町長をはじめ双葉町役場の人たちは、
大変な目に遭った中でも上を向き、夢を追いかけている。とてもポテンシャルが高い。
私はここに、工場のみならず復興のシンボルとなるような拠点をつくり、
交流人口を増やしたい。「双葉町は、福島県は負けないぞ」をアピールできる。
そんな場所にしたいですね。



立地協定書に簡印し、握手を交わす浅野さん(右)と
伊澤史朗 双葉町長